

学校プロフィール

鈴鹿市立鈴峰中学校

【平成30年4月】

1. 目指す学校像について

項目	内容
(1)目指す学校	豊かな人間性とたくましい実践力を持つ生徒の育成
(2)ありたい姿	① 「わかる授業」を提供し、生徒の学習意欲を育む学校 ② 温かい人間関係を築き、自己肯定感や自己効力感を高められる学校 ③ 教職員がそれぞれの「よさ」を発揮し、目指す学校の実現に向け気持ちを1つにして取り組む学校 ④ 学校と保護者・地域とが双方向で連携・協働する学校

2. 現状の認識について

(1)価値を提供する相手		
①相手方の区分	②現在の要求・期待	
生徒	・学校が楽しい ・授業がよくわかる ・安心して学校生活が送れる	
保護者	・いじめや問題行動のない学校 ・学力保障 ・進路保障	
地域	・地域活動への参加 ・地域を担う人材の育成 ・情報提供	
(2)パートナー		
①パートナーの区分	②パートナーからの要望・期待	③パートナーへの要望・期待
保護者	・学力保障 ・情報発信	・学校づくりの連携と協働
地域	・人材育成 ・情報発信	・学校と地域と双方向の連携
中学校区小学校	・小中連携 ・リーダーシップ	・小中連携と情報共有
近隣高等学校	・連携 ・途切れのない支援	・連携 ・途切れのない支援
(3)組織の現状	① 定期的にあいさつ運動を行い、生徒、教職員、保護者、地域の人々が気持ちよく、元気にあいさつを交わす姿が見られる。 ② 校内研修で「わかる授業」を提供するため、授業改善への取組を進め、その手立てや方策について協議しながら教員相互の力量を高めあっている。 ③ 報告・連絡・相談・確認を徹底し教職員同士の意思疎通を図っている。 ④ 中学校と校区の小学校、保護者・地域が双方向で連携・協働する取組が行われている。	

3. 目指す学校像実現のための重要な視点（方針）について

(1)重点化に向けた視点	① 学力保障・学力向上の推進 ② 安全で安心な人権感覚溢れる学校づくりの推進 ③ 教職員の学校経営への参画意識の高揚 ④ 開かれた学校づくりの推進
(2)上記の背景・理由	① 授業改善・少人数教育・学習ボランティアの活用・補充学習・キャリア教育・家庭学習の定着等で、確かな学力を育み学力を向上させる。 ② 生徒の自己肯定感や自己効力感を高める取組を通して、いじめのない温かい人間関係でつながる集団づくりをする。 ③ 日々の対話を大切にし、「安心して教育活動に従事できる」職場環境づくりに努める。 ④ 鈴鹿型コミュニティ・スクールの取組により、学校と保護者・地域が連携・協働し双方向の学校教育活動を推進する。